踏み絵の手順や慣例について話す原田会長

=長崎市、

県勤労福祉会館

11

館であった。第1部で原 崎市桜町の県勤労福祉会 手順や慣例について講話 田会長が「正月の行事 崎学公開講座が13日、長 」と題し、踏み絵の れた。 として毎年正月に実施さ ことを証明するため、 来が長崎奉行所から踏み 年番に当たる町年寄の家 尸期の長崎では年中行事 1月2日に、その年の

長崎史談会·長崎学公開講座

江戸期は正月の行事に

った」という。

と記述している。 町絵板十二枚なり」とあ 枚の踏み絵を必要とした 文龍著)には「都合十六 などで実施。 へ 16か町を回るのに12 例えば4日は大黒町、 1797年、野口 今魚町、東浜町 「長崎歳時

事績(1

上」と題して講話

現在同会で書籍化を進め

いて、先祖に焦点を当て

ている西道仙の生涯につ

が「西道仙 その生涯と

い」と述べた。

第2部では、

原田会長

部屋附などに対して行わ 町)、9日に唐人屋敷の ~8日で総町(77か町)、 年寄の家族や家来ら、 絵10枚を借用。3日に町 疑われてもしょうがなか にいなかったら怪しいと 決まっており、「その日 各町で実施される日付は 原田会長によると (丸山・寄合 ミスと考えている。 歳時記は野口文龍の記載 更などを考え合わせ、 あったこと、町割りの変 午後に分けて使う場合が 絵1枚を2か町が午前と ど他の文献資料や、踏み て分析した。 に必要だった枚数につい 絵は10枚とされているこ 精査しなければならな 分かる」と指摘。 初から10枚だったことが 「長崎古今集覧上」な 原田会長は実際 「長崎 今後

8日に両町

長崎史談会(原田博二

の本年度第1

回長

人々がキリシタンでない

踏み絵は町年寄以下の

奉行所から借り出す踏み

て紹介した。 田代菜津美